



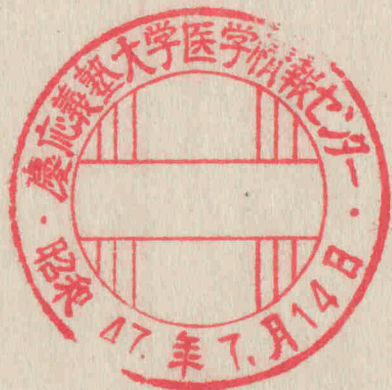
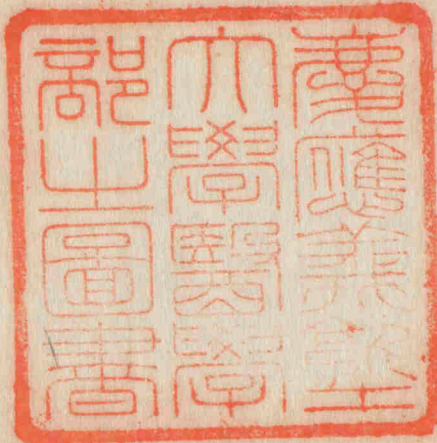
k 224

F
#-34

Key

No.
2877

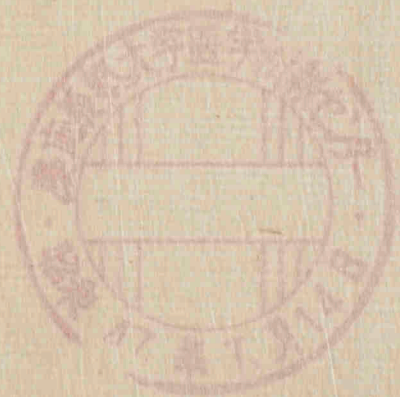
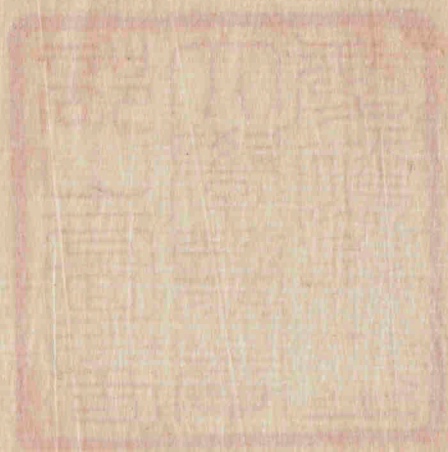
19 K 224



富士川文庫

3176

496.2
K
No. 2899
大
癩野眼科図限卷之二



3576



癩野眼科図限卷之二

有正武野宜明



○照眼鏡觀網膜辨

網膜ヲ照鏡ヲ以テ之ヲ見ル多クノ脈管ヲ有スルヲ見ル

此網膜透明ニメ脆薄ナルヲ以テ見ルヲ得ルナリ眼球

内ノ色ハ脈絡膜ニ關係ス假令ハ西洋人ハ黃色ニ見ヘ日

本人ハ黑色ニ黃ヲ混ソ見ルカ如シ元来此色々素ニ在リ

○網膜病種々之アリト魚氏照鏡ヲ以テ之ヲ見ルヲ得ヘ

シ此膜ノ病ハ惣テ視力ニ妨碍ヲナス○古昔ハ網膜病ヲ

細密ニ弁明スルヲ克ハス一般ニ之ヲ「ズワルトス」ト名ク

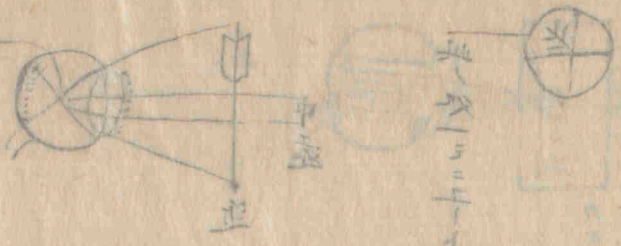
近世ニ至テ明鏡ヲ以テ精密ニ之ヲ弁別メ各病各名ヲ附

シ得タル故ニ「ズワルトス」ト名廢ス

○第一網膜ノ一部或ハ全部ノ分離スルハ網膜変質ナリ

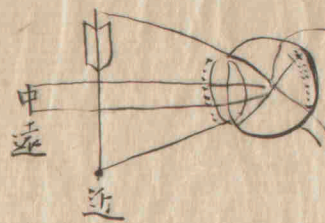


房二網膜（スレック）肥厚（ワートルシフト）水腫
 房四網膜組織中ノ脂
 肪ノ変（此ト多クアル）房五黒色素網膜上ニ接着又（此ト多クアル）症有
 房六網膜（カンクル）状ノ変性房七血管ニ由テ張出チナス房
 八血管ノ狭窄閉塞此（エキスタード）ニ由テ廢ニアル所ナリ此
 血管通行ノ処ニ（エキスタート）アルナリ神至乳頭ノ変形凸凹尖
 少クナリ色チ変スルテ假令ハ白ノ臍状チナスナリ然ル
 氏ハ其ノ透明チメヒ平常其間ニ血管通行アルチ見ルヘ
 キ透明今ハ乳頭腫或ハ瘍チ生シ或ハ黒色チナスアリトヒ
 フメント消失スルト脈絡膜ノ病チ生スル稀ナリ大畧
 脈膜ト共ニ患ヒ又續症チ發シ硝子液曇暗ナル氏ハ網膜
 ニ病アルナリ知ルヘシ慢性炎症ノ（エシキタート）ニ由テ然ル
 ナリ慢性炎症ハ漸チ以テ網膜変性チ成シ盲トナル照眼鏡



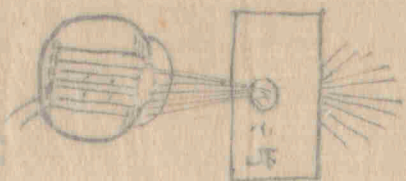
ナ以テ之ヲ視ルモ大抵不治ノ症ニ属ス故ニ急ニ増進セ
 シメサルチ以テ要トナシ防禦ノ治方チナスヘキノ其
 原由（梅毒）「ウマナス」イ「グト」等ニ由ル者多シ故ニ多クハ不
 治ナリ（エキスタート）ノ輕症ハ消散ノ前ノ如ク透明ナルチ
 得ルアリ然氏組織ノ変性ニ至テ不治ニシテ点眼水モ効
 ナシ
 ○物像ヲ視ルニ付テ人身究理ノ論
 夫レ光線ノ眼球内ニ入テ網膜上ニ輻輳一點チ倒ニ印ス
 ルヤ結晶性ノ（ケールス）ノ処ニ映スル○（ケールス）此銳如ク光線チ受テ
 黄班ノ処ニ克ク見ルト云者是此ノ（ケールス）ノ多在ル故也
 ○眼球内ニ物像チ映スルハ（ホトカラヒト）ト同理ナリ近キ物
 ハ大ニ視テ遠物ハ小ニ見ル此網膜ニ映スル像ノ大小ア

視角ハシ
ワコノ

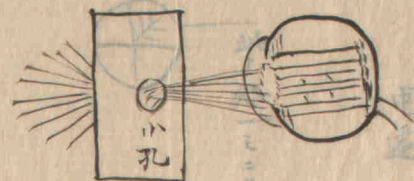


此ノ処ニミチト

アルナリ假令ハ山上ニ在ル人ヲ見ルニ小児ノ如シ此遠
キカ故ナリ然ル人ノ考ニ由テ大人タルヲ知ル圖アリ
物ヲ見レハ考ト習慣ニ由ル然ル氏此ニテモ誤リ認ムル
アリ小児影ヲ捕エ月ヲ逐フカ如クナリ先天病ニテ皆
スル者中途ニシテ物ヲ視ルハ即チ小児ノ未ダ習慣考
恩ノナキカ如シ又是慣ニ由テ成ルナリ○黄斑ノ処ニ物
形ノ映スル片ハ克ク見エ之ヲ「インシラ」ト名ク今極大ナル
物ヲ見ル片ハ一時ニ黄斑ノ処ニ印ス克ハス故ニ上下左
右ヲ轉視メ而右之ヲ黄斑ノ処ニ集テ之ヲ考アルナリ瞳
孔大ナリ片ハ眼ヨリ光線多ク来ツテ之カ為ニ妨ケラレ
視ルハ能ハサルカ如シ故ニ「キエンスマーケ」人エノ瞳孔ヲ開
クナリ好トス然ル網膜衰弱スル者ハ多クハ光線来テ「ケ



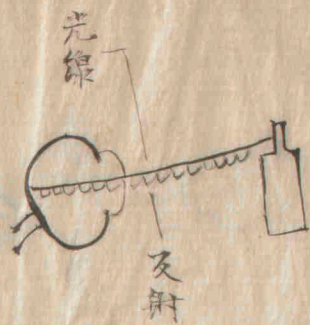
ゲルニ映スル故ニ然ルナリ○色ノ分鮮ハ白色ハ皆反射
シ黒色ハ反射セズ唯眼ノ光線ノ反射ニ由テ黒物ヲ知ル
故ニ黒物ハ眼ニ視ルナシト云モ可ナリ○物色ハ「ケリルソ
」ニ由テ各ノ色ヲナス赤色「ケリルソ」ニ由テ各ノ色ヲナス
赤色「ケリルソ」ハ大ニ少キ次第ニ上リテ紫ニナルト極小
ニ多キナリ又此ノ「ケリルソ」極大ニ多キ時ハ見ヘス
又小ニ多キ極ク多キ片ハ見ヘスナリ各物毎ニ網膜ヲ各種
ノ刺激スル故ニ「脳」ニモ又各種ノ感受ヲ為スナリ
○平生ト雖「レニス」ニ亦不透明ノ小粒アリ又硝子液ニモ
「セル」ノ不透明ナルアリ網膜ノ前部ニ血脉アリ不透明ノ
小粒アリテ其影ノ映スル強裂ト虽ハ妨ケナシ其妨ケナ
キハ其光線集リ来ル片ハ妨ケナシ若シ其ノ光線ヲ容ル小



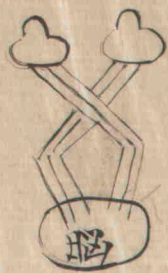
カルタ

粒ニ由テ半チ妨クル氏ハ妨ナシト云フヘカラズ○其平
常康健ノ眼ニテ不透明ナル妨ヲ検査スルニ「カルタ」ニ小孔
ヲ穿テ此ヲ眼前ニ置テ見ル氏ハ光線ノ直行スル物ヲ妨
ク故ニ影ヲナスナリ是則病人ノ飛遊ノ物象ヲ見ルト唱
フルモ是ナリ此症ヲ「エントビシ」ト名ク此「セウイ」ト云フ義
ナリ自テ眼中ヲ圖アリ
○血管ニ血液充積スル氏ハ網膜ニ映ス故ニ病人屬物ヲ
見ルナリ「スワール」スタールニナリテ危険ノ症ナリ故ニ網膜脈
絡膜ノ慢性冷症ニテ如此症ヲ見ハスハ危険ノ症トス然
氏若シ平生ノ不透明ノ物大ニナリテ飛物ヲ見ルノ病ハ
妨ナシ○「エントビシ」ニ不透明ナル処アリテ妨ナシ飛物ヲ見
ルハ其飛物ノ不動ナルヲ以テ區別スヘシ「所謂輕症」カ

タラケトナレハ物象網膜ニ映スル氏物去ル氏暫時其像ヲ
見ル此言未分明字強ク光ル程尚然リトス假令ハ暗室中ニ
於テ一点ノ火ヲ以テ線香輪狀ニ循環スル氏ハ一点ノ火
円ノ輪ヲ成ス夫見ル此則ヲ暫時ノ間物去ルト雖凡物像
尚網膜中ニ映シ在ル故ニ極赤キ物ヲ長ク見テ眼ヲ閉ル
氏ハ縁色ナルヲ覺フ此ヲ「ナール」ト名ク長ク日陽ヲ見テ後
種々ノ光ヲ見ルモ亦後像ナリ○五色ハ互ニ変化スルヲ
「エングリ」メ「グライ」ト名ク赤消ト云○眼鏡ヲ以テ病人ノ眼ヲ見ル
氏ニハ光線再ニ透者ノ眼ニ返来ル蠟燭火ノ光ノ入ル処
ハ反射スルナリ此蠟燭火左右ニ置ク氏ハ見ヘス又眼ノ
直前ニ置ハ燭火ノ障ニテ見ス故ニ燭火ヲ眼ニ置キ鏡上
ニ光線ヲ集メ中央ノ穴ヨリ此ヲ見ルナリ図アリ○眼鏡



ニテ眼内ヲ見ルハ赤色ニ見ルハ鏡ヨリ映スル光線ノ
 「エビテリム」上ヲ照スナリ西ノ鏡ニテハ眼内ヲ明ニ見ルヘ
 シト虽氏大ニセスナリ故ニ四ノ物トニツチ用ヒテ見ル
 氏ハ大ニメ且明ナリ○眼鏡ヲ作ル人尤モ上巧ナルハ獨
 乙国人「ブロス」チ第一トス○眼球内ノ黄黒ナル者ハ光線
 ノ返射少シ此黒色内ニ光線ヲ吸収スル故ナリ緑眼ノ者
 ハ返射多シ故ニ亮ク見ルイチ得○乳頭ハ返射強シ○網膜
 ノ神至「セル」光リテアルヲ見ルナリ○両眼ニテ一像ヲ見
 ルハ此平生ニ属スニ像ヲ見ルハ已ニ平生ニ非スヘシケ
 ル「シ」及ヒ手術後此アリヲ見ル兩眼ニテ物ヲ見ル視軸
 ハ一処ニ落ルヲ以テ一像ヲ見ル此軸眼ノ処ハ廣リテ狭
 シ光線一樣ニ来ルチ「イー」テ「サース」ト名ク「チ」ハ「コ」スナリ



若シ一眼ノ視軸違フテ居ルハ二像ヲ視ル視神至ハチ
 フル「ガイ」スニナリテアルヲ以テ一物ヲ兩眼ニテ一像ニ見ル也
 若シ視軸一樣ナラサルハ「下」フル「シ」チ成スナリ四ナリ
 假令ハ物ヲ見ルニ一物ヲ強視スルハ他ノ一物ハ重像
 ナナスナリ○腦ハ左右共ニ膜アリテ互ニ通シ故ニ互ニ
 通交ノ用ヲナス故ニ片眼ニ冷症アレハ又片眼モ冷症ヲ
 傳フルナリ

○六筋ノ辨

眼ノ運動ハ多クハ六筋作用ナリ上下左右ノ直筋ト二ツ
 ノ斜筋ニ在リ此ノ筋腦ノ視神至「ス」ヨリ出テ角膜ヨリ一
 二「レイ」前ニ睫トナリ接着ス結膜ヲ除ケハ其下ニ在リ此
 上下左右ノ四筋ニテ恰好ニ張合ニテ眼球ヲ保チ運動ナリ

作サシム二ノ斜筋ハ眼ヲ前ニ引附ルヲ為ス四ツ直筋
ハ後ニ引附ル故ニ斜筋十ヶレハ眼ヲ内ニ引附ルナリ上
斜筋ハ内眥ノ方ニ向テアリテ前ノ方ニ^{カトロ}引^ルナリテア
リ^{ハカトロ}ハ眼富ノ軟骨ニテ下斜筋ハ外眥ノ方ニ向テアリ此ノ二ツ
ノ斜筋共ニ動ク氏ハ眼球ヲ廻轉運動セシム下斜筋動ク
氏ハ球下ニ廻リ上斜筋動ク氏ハ上ニ廻ル在右直筋ノ動
ク氏ハ球ヲ左右ニ轉シ上下筋動ク氏ハ上下ニ動クナリ
上筋ト左筋ト動ク氏ハ斜ニ動クナリ其他運動皆此ノ例
ニ習フ○両眼共ニ上下筋ハ一時ニ動ク外筋ハ左右共ニ
齊ケ動カス係シ内筋ハ左右齊ケ動クヲ得上下ノ斜筋
ハ齊ケ動クヲ得ス
○眼球運動ノ辨

夫レ六筋惣テ靜ナル氏ハ張合ニ相配ス四ノ直筋ハ少シ
ク眼球ヲ後ニ引キニツノ斜筋ハ少シク前ニ引故ニ如此
ナルアリ若シ痙攣状ヲ起ス此^トリ^エソ^ケツ^ル筋力強クナル此ハ
「カタクト」ノ手術ノ氏ハ偶是アリ此^スト^ロク^バズ^ドノ損傷ノ硝子
液流出スルナリ痙攣性アル者ニハ手術前ニ六筋ヲ用エ
ヘシ○眼球大筋ニ由テ「アス」ノ如ニ運轉ヲ為ス尤モ速ナリ
此時ニハ二筋或ハ一筋或ハ三筋ト互ニ一致シ或ハ各一
々働キナス眼ヲ内下外上面ニ引ク氏ハ二ツノ筋一ツノ
斜筋働クナリ大抵眼球ノ筋ハ兩眼一時ニ働キ為スナリ
然レ氏内直筋ト外直筋ハ一時ニ働ク克ハス又平行線ニ
遠方ノ物ヲ見ル氏ハ左眼ノ内直筋右眼ハ外直筋働クナ
リ又近キ物ヲ見ル氏ハ如此ノ動作ニ及ハサルナリ如此

「知ノナリ義未解恐
割去ノ可ナラン」

速ニ運動ナシ常ニ物ヲ網膜黄斑上ニ持来ル故ニ見ル
「ヲ」得ル「明」ナリ若シ六筋中一筋病アル寸ハ視軸ニ物
像ヲ導ク「能」ハス知リナリ或ハ痙率或ハ冬後ニ「エ」キシタ
「上」等ニ由テ短縮或ハ痙率ノ方ヘ引縮ス「二」ハ多少ノ「六」痙
ナキ方ヘ引縮ス以上病ニ由テ種々ノ斜視ナス或ハ編
眼或雙眼常ニ斜視ナスアリ又時々斜視スルアリ就中
内斜視尤多シ又外斜視アリ其他諸方ニ斜見スルアリ以
上ノ諸症時「ア」ツテ恰好治スルアリ○治法ハ筋ノ結膜下
ニ「睫」トナリ生ス処ヲ切ル或ハ一部或ハ全部或ハ生スル
処ヲ縫接メ前ニヨスルアリ此等ノ手術多クハ四以ノ直
筋ニ在リ二以ノ斜筋ハ甚々施シ難シ○斜視眼ニテ又視
襠ヲ妨ケルアリ若小兒左眼角膜曇暗ナス氏ハ最早左

左眼働ナシサス故ニ右眼ノミシ「フ」ツ「ア」ス視軸ニ合メ運
轉ナシ「遂」ニ斜視ナラス○又小兒蛔虫ニ由テ痙率ナス為
シ眼ナ一方ニ引縮スル事「ア」ツテ「遂」ニ習慣ナシ斜視ナ
ス此ニ由テ二像ヲ見ル此視軸ノ「X」ヲ為サスメ引ノ如
キナ為ス如此ナル「七」常習ナシ「疝」眼ニ意ヲ注サル氏ニ
像ヲ見ル「七」ナキニ至ル○内直筋引縮スル氏「ア」モ「冬」筋
モ同ク働クナ「以」テ「レ」ス「モ」ボ「心」ニナルナリ尤未物ナ近ク
見ル氏ハ内直筋強ク働キ内方ヲ見ル氏ハ瞳孔縮小ス外
方ヲ見ル氏ハ張大ナス○六筋ノ外又筋アリ此所神至
夾ヨリ生シ眼瞼軟骨ノ処ニ附着シ此ナ「ヲ」ワ「フ」リ「フ」ル「ヲ」
「フ」リ「ワ」ス「セ」ル「ト」名ク○眼ノ運動ヲ作サシムル神至ハ「三」
是四六六對人神至ナリ「才」三ナ「ハ」メ「ウ」シ「カ」ヘ「レ」キ「井」フ「ス」ト

「知ノナリ義未解恐
割去ノ可ナラン」

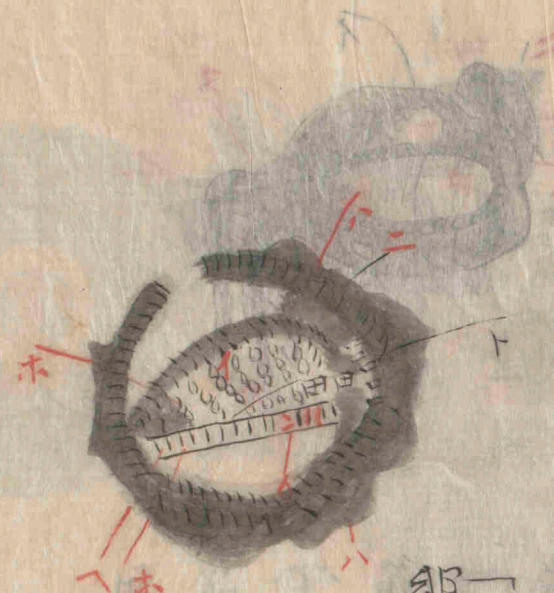
「即ち」下按三半身
不随患者ノ七字
脱スルナ

ルセ一三六「ト名ク」四ハ上斜筋ナリ、六ハ外直筋ナリ、二ツ
ノ筋ヲ除クノ外、五筋皆十、三ノ神至ノ作用ヲ受ク、其他
「ア」モ「カ」ノ作用モ亦然リ、才三神至六痺スル、ハ上外方
ニ引縮シ、瞳孔散大ナリ、此神至全ク六痺スル、一少
シ、假令ハ才三神至ノ六痺即チ、此、缺字、考、上、瞼、下、垂、ナリ
不直筋六痺スル、ハ内方ニ引縮シ、斜視ナリ、或ハ近視
ナリ、ナ内直筋六痺スレハ外方ニ引縮シ、「ア」モ「カ」ノ筋モ亦
働キ失ス、斜筋六痺スル、ハ頭ヲ傾止、ハ眼球其ノ傾ニ
從テ廻ル、才以テ物像ヲ斜ニ見ル、斜筋ノ作用ハ眼球ヲ
垂線ニ向テシ、ハ用ナリ、才以テナリ、

眼科究理一送則終

眼解部圖説
第一圖

茂乙保護腺ヲ眼瞼内面ヨリ見ル所ノ圖



「一」同ノ「二」ホ一ム腺

- 上眼瞼口 下眼瞼
- 結膜
- 二涙腺ノ排洩官孔
- ホ涙涙腺ナリ
- 涙点
- 「下」ノ「イ」ホ一ム腺ノ孔

第二圖眼瞼ノ構造ヲ示スル所ノ圖

第二圖眼瞼ト涙器ト繋合ニ於テ考ノ圖



一 上眼瞼ノ軟骨 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

二 下眼瞼ノ軟骨 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

三 上部ノ涙腺 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

四 下部涙腺 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

五 涙腺ノ排泄管 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

六 涙腺ノ排泄管 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

七 涙腺ノ排泄管 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

八 上部小涙管 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

九 下部小涙管 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

十 鼻内涙管下孔 ボウヘレステキークレツトカ
ラークベーン

第三圖眼球ノ直筋チ外方ヨリ見ル圖ナリ



一 視神至チ因閉スル鑿骨小部至三 視神

二 斜筋ハ至ナル后方チ行ク前ニ六十八軟骨韌

三 筋其レハ多分視神至ニ掩レテ見エ難

四 外直眼筋ノ共ニ頭明ニ見ルニ至

五 筋ノ前部ノ終リ至ニ下直筋至ニ透明角膜ノ

六 周圍

七

八

九

十

第四圖眼球ノ諸膜ヲ光線狀帶ノ周圍ニ於テ開載シタル圖
但シ其大寸ハ真眼ニ二十倍ス



ハ角膜ノ(一)光線狀體(二)水樣
液(三)硝子狀體(四)晶状體
管(五)水晶体(六)粘液膜ノ
脆弱ナル表皮(七)ヤノ印
ナル強膜ノ組織ナキ膜
(八)角膜ノ原組織(九)デム
ノ膜(十)粘膜上ノ脆
弱ナル表皮(十一)膜終
至(十二)印(十三)カ印迄ハ一種ノ組
織(十四)ハ此ハ虹彩ニ移ルルカ

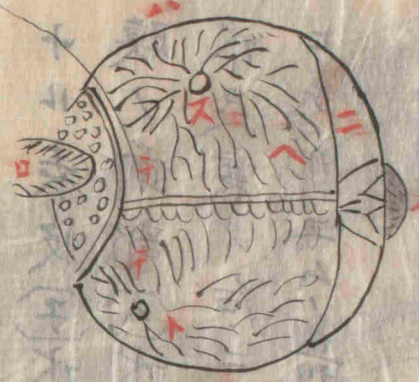
此圖符号ト
合ハス



セリ(一)ノ管(二)光線狀帶(三)セリ(四)ノ管ノ内線(五)虹彩ニ及フ処ノ
膜脈ノ色素層(六)虹彩ノ結締組織及筋層(七)粘膜上ノ脆弱
ナル表皮(八)水晶体ノ前部(九)粘膜上ノ脆弱ナル表皮(十)網
膜ノ前部(十一)水晶体ノ縁ニ達スル網膜ノ徒属セル部分(十二)
水晶体ノ后ニ在ル網膜ノ后部(十三)脈絡膜(十四)ヒテリウム(十五)上ノ
ヒテリウムノ前部ノ終(十六)水晶体ノ后縁

切タル眼前部図
(一)強膜脈絡膜網膜トノ切
(二)瞳孔(三)色素ヲ以テ掩タル虹彩ノ后部
(四)光線狀體(五)光線狀帶

第六圖血管ヲ見ル爲ニ強膜ヲ取除キタル眼球ノ面



強膜ノ内部ニテ靜脈ト接合スル脈
絡膜ノ部ニ長キ毛様帶ナリ神至

①強膜ノ后部②視神至③脈絡膜④

光線狀帶⑤虹彩⑥脈絡膜ノ外部上

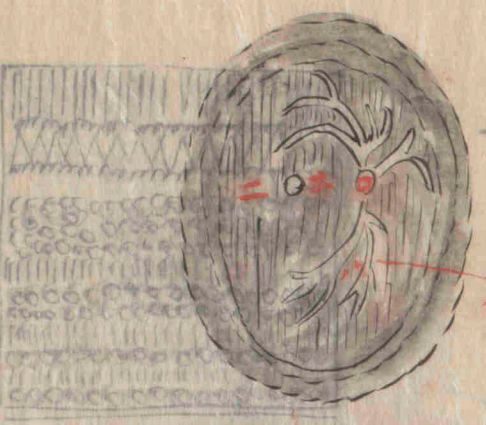
ニアル脈絡膜ノ靜脈下靜脈大管ノ

弱膜ヲ透入スル又印ナル動脈

大管ノ内部ニテ靜脈ト接合スル脈

絡膜ノ部ニ長キ毛様帶ナリ神至

第七圖眼球ヲ内面ヨリ見ル后部半球圖



①強膜脈絡膜網膜ヲ切り透シ網膜ノ擴方

スルヲ見ル②視神至③其真中ヲ動脈通

行ス④此ノ動脈ノ分枝⑤所謂真中ニ孔ヲ

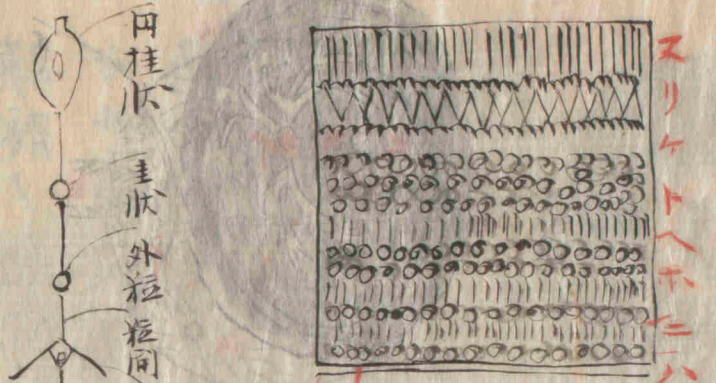
モテ余網膜真中ノ皺是レハ生活中ニ八十

キモノナリ

①強膜②脈絡膜③網膜④視神⑤動脈⑥靜脈⑦大管⑧毛様帶⑨神至⑩皺

第八圖眼ノ内部ヨリ見ル前部半球圖

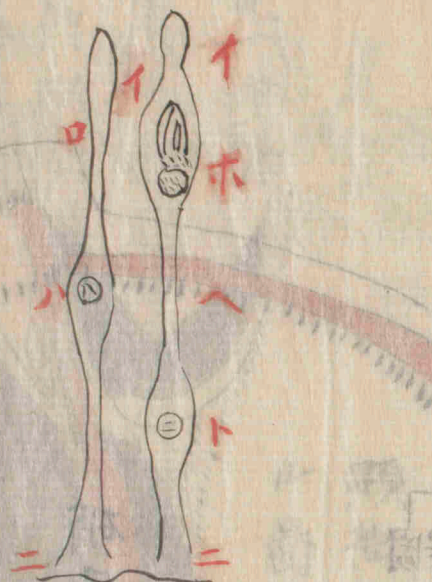
第八圖眼ノ右部ヨリ網膜ヲ切り透シタル圖



イ互ニ接合シタル透明ナル硝子涙膜
ハ脆薄ノ表皮ナリ
ロ界膜ハ透明ナル
粒三視神至ノ擴分
ハ内部ノ粒層
ハ他ヨリハ光線状ノ
纖維ヲ明ニ見ル
ハ外部ノ粒層
ハ漏斗状層ノ漏斗状ノ
外部ノ終リ棒状ノ
境界膜

右圖(東校)於テ講説
長十圖眼ノ右部ヨリ網膜ヲ切り透シタル圖

第九圖互ニ集合スル光線状ノ原形



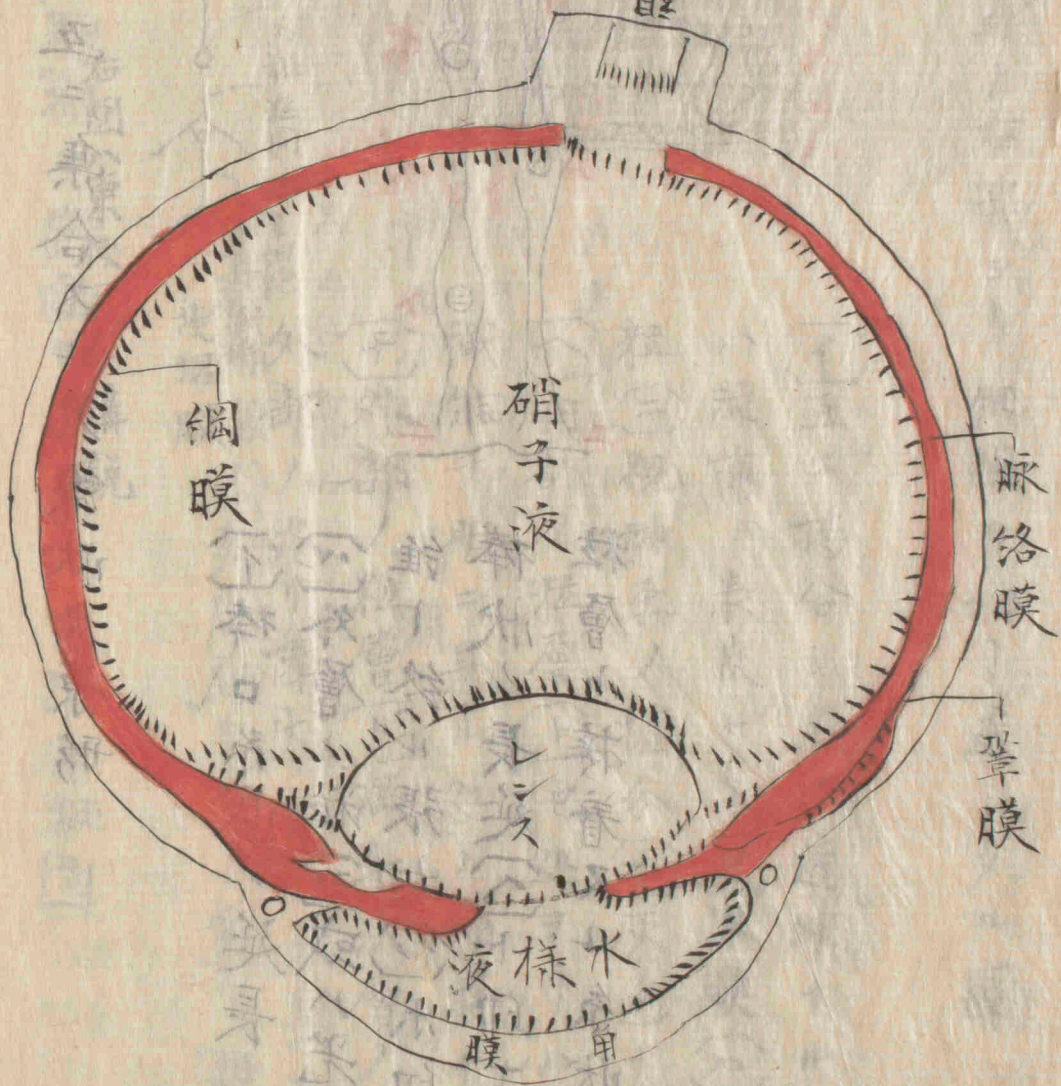
ハ棒口糸状ノ延長
ハ外部ノ粒層
ハ或ハ光線状ノ截
維一終ル張大
ハ印ノ漏斗ノ
棒状ノ長延
ハ印ナル内部ノ
粒層ト接着スル糸状ノ長延

第十圖

第十一圖

第十圖

全眼之圖



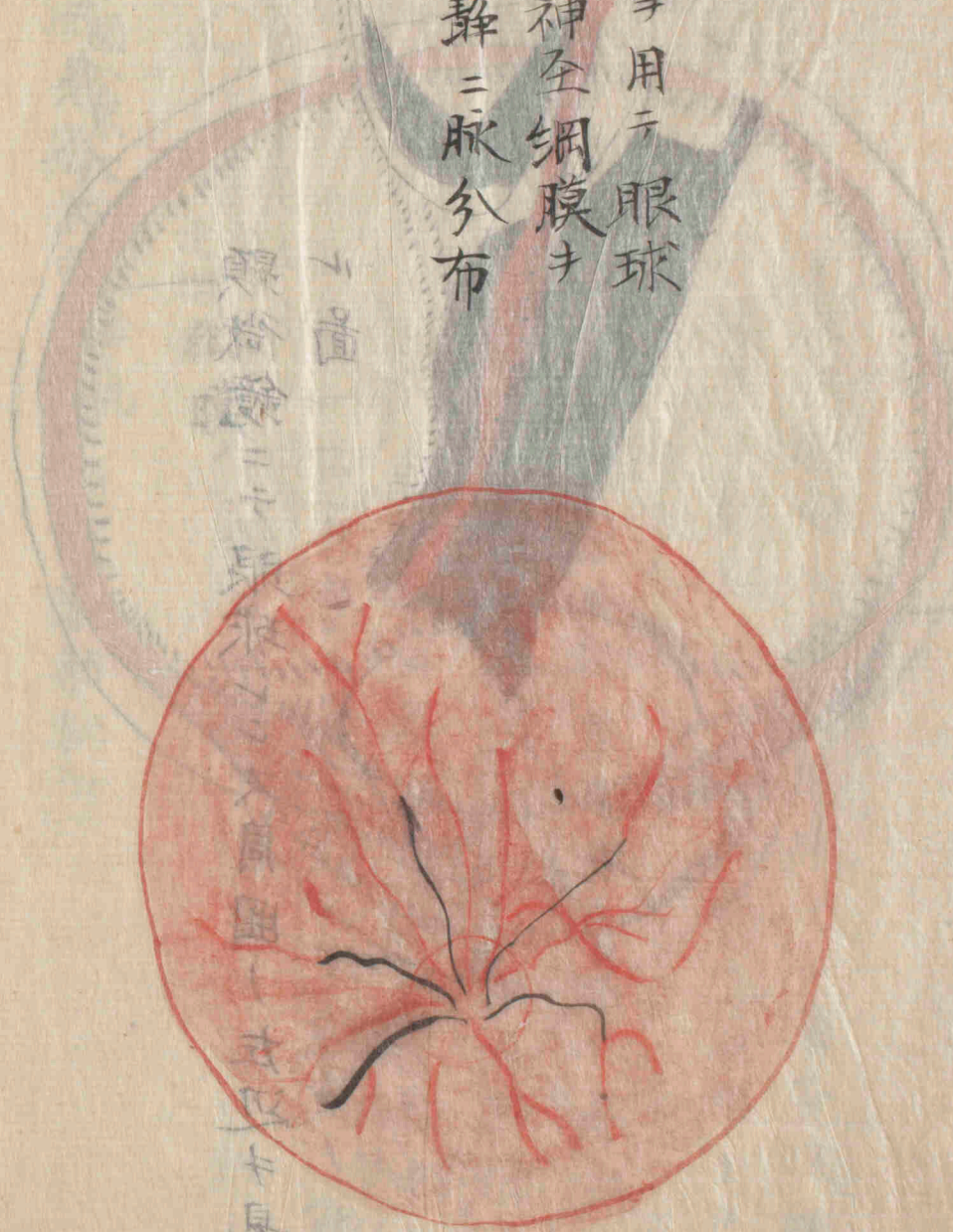
第十一圖



顯微鏡ニテ眼球ノニス周囲ノ左辺ヲ見ル

第十二圖

健眼
探眼鏡ヲ用テ眼球
内部視神至網膜ヲ
見ル動靜ニ脈分布
之形様



第十一圖

眼科薬剤畧論標目

鑛劑

硝酸銀

丹蓉

皓礬

鉛劑

鉛糖

汞劑

升汞

甘汞

五

赤降汞
水銀膏

同外
藥水
大スリ

五尔加里性塩

食塩

重土塩

沃篤利篤

植物性劑

阿片

モルヒ子

嬰栗花

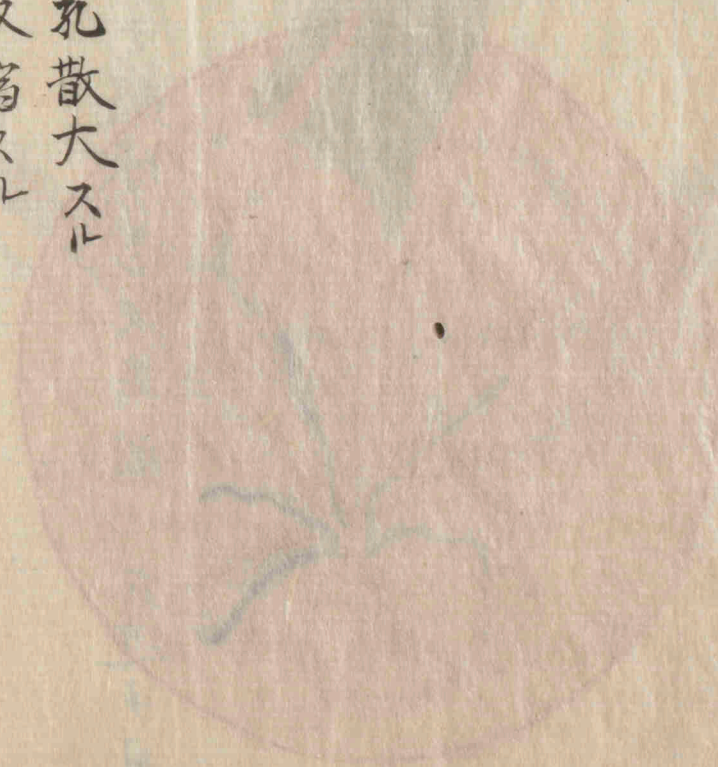
莨菪

アトロヒ子

カラハル

眼科
ヒヨス
眼
目

瞳孔散大スル
同収縮スル



シキエタ及ケフレツクテシケウルレン

タンニ一子

テレビン油

竜腦

茶葉

動物性劑

脂肪

乳汁

芫菁膏

芫菁丁幾

水蛭

洗眼劑

眼科藥劑畧論
 和蘭第一等越度列布度大
 學校教頭兼應招大日本
 崎陽精得教館頭鵬度印先口授
 受業 北越 竹山屯義種筆記未定稿
 鑛劑 硝酸銀
 點眼藥ハ甚多シ其内一二ノ藥ハ用時ノ長短分量ノ多少
 ニ由テ其功キ異ニスル者即一藥ニメ収縮刺戟或ハ變質
 腐蝕劑トソ用フ其藥中世上多ク用エルハ硝酸銀ナリ此
 藥ハ眼ノ結膜及ヒ淚管淚囊中ノ粘液膜ニ偉績ヲ奏スル
 ナリ以テ多ク採用ス輕キ刺戟収斂劑トソ用エル症ハ即聖

眼科藥劑畧論

和蘭第一等越度列布度大

學校教頭兼應招大日本

崎陽精得教館頭鵬度印先口授

鑛劑

硝酸銀

點眼藥ハ甚多シ其内一二ノ藥ハ用時ノ長短分量ノ多少
 ニ由テ其功キ異ニスル者即一藥ニメ収縮刺戟或ハ變質
 腐蝕劑トソ用フ其藥中世上多ク用エルハ硝酸銀ナリ此
 藥ハ眼ノ結膜及ヒ淚管淚囊中ノ粘液膜ニ偉績ヲ奏スル
 ナリ以テ多ク採用ス輕キ刺戟収斂劑トソ用エル症ハ即聖

一本ニ
腐蝕劑ニ
硝酸銀一多ニ
ホ一多ニ溶ス者之
レ劇キ肉丘或ハ
荒蕪ニ用ス

京偶性冷及粘液分泌ノ多キ症ナリ其量ハ一ハ或ハ半ハ
ナ一多ノ魚鰻水ニ溶解ノ簡便ニ眼中ニ点入ス如此功ニ
テ眼中ニ入ルハ二ハナ一多ノ鰻水ニ溶解スルヲ以テ
最モ強トス二ハ以上ハ唯結膜等ノ局処ニ塗擦ス而モ勉
テ角膜ニ触レサルヤウニスヘシ其量ニ从テ腐蝕或ハ變
質劑トノ用ス其量ハ五ハヨリ二十ハナ一多ノ鰻水ニ溶
解ス此變質劑ノ功ヲ奏スルハ其劇キ刺戟ニ由テ原來
頑固ノ冷アル処ニ一処ニ新冷ヲ發シ其病勢ヲ變ノ消滅
セシムルナリ其他ノ性質ハ説示スヘシ克ハス此美ヲ施ス
ニハ先ツ眼瞼ヲ反翻メ筆ヲ以テ塗擦ス而後他ノ筆ヲ以
テ水ヲ灌溉ノ洗フヘシ之ヲ擦塗メ后水ヲ以テ洗フ時聞
ノ長短ハ病性ニ因テ斟酌スヘシ病院ニ於テ書生ノ点眼

スルヲ見ルニ塗擦后根根ノ急ニ水ヲ以テ洗フ者アリ然
氏病性ニ依テ長短スヘシ又此藥ヲ角膜ニ塗擦スルヘ
リハ二エスノ如キ症ナリ然レ氏其ノ他ハ皆眼瞼ヲ反翻
メ角膜ニ觸レサル様ニ上下手合メ塗擦スヘシ眼瞼ノハ
ラシラレ等ニ腐蝕ノ目的ニテ一多ヨリ二多ナ一多ノ
鰻水ニ溶解メ用フ甚シキ症ニテ瞼裏肉丘非常ニ突起ス
ル者ニハ之ヲ溶解セス結晶ニテ直ニ六擦スルヘアリ
然レ是レ注意セサレハ過度ニ焼灼メ眼瞼内翻症ヲ起
スヘアリ結晶ニテ直ニ六擦スルハ硝酸銀ヲ等分溶解
メ管或ハ鳥翅管中ニ入レ結晶セシメル者ヲ最モ善トス
麻毒膿性冷等ニハ古昔ハ皆結晶ニテ用スヘシ全モ膏テ
之ヲ用シ力勤モスレハ燒スルヘアリ故ニ今迄ハ多ク

強キ溶解液ヲ用ユ若シ結晶ニテ用ユルハ其底水ヲ以テ
テ克ク灌洗スヘシ否ヲサレハ其屑片残留ノ角膜ニ觸レ
腫瘍ヲ發シ曇暗スルヲアレハナリ溶解劑ハ此害ナシ又
淚囊及淚管閉塞或ハ慢性炎ニハ強溶水ヲ以テ燒灼スル
ヲ善トス此藥一次ニ多ク製メ久ク用ユヘカク又少ク製
メ時ニ換ヘシ長ク用ユルハ沉澱物中生ス其沉澱物ハ
塩酸銀及ニ酸化銀ナリ瞼ニ塗擦メ忽チ白色トナルハ是
レ淚液中ノ塩ト抱合メ塩酸銀トナリ然レハ溶解シ
難クナリ硝酸銀ノ効ヲ失フ宜洗除ス
丹卷 即硫酸銅
此藥モ多ク用ユ其功殆ト硝酸銀ト同シ然レ其勢甚弱シ故
ニ結晶ニテナリ擦スルハ硝酸銀ノ如ク害少キ故ニタニス

○小片ニ碎クルノ
忌レナク
タニス
誤ナラン

ハラミラニハ硝酸銀ニ代用メナリ擦ス此藥ト硝酸銀
ノ的切アルヲ奏スル症ノ區別ハ口説スルヲ克クス何ト
ナレハ甲藥此症ニ功アレハ彼症ニ功ナシ乙藥ハ此症ニ
功ナク彼症ニ功アルノ別ナリ時トノ功ナク時トノハ在
アレハナリ然レハ一般ノ規則ハ腺病性ノ眼疾ニハ硝酸銀ニ
勝トリトス硫酸銅ハ往昔稱用スレハ方今ニ至リ多ク用ユヘニ升
若キ結晶ニテ用ユ六丹若キ分明結晶ニテ溶解メ管中ニ入レ結晶以
セシメテ腐蝕藥トノ用ユナク善トス

皓卷

此ノ藥ノ功前ノ二藥ニ同シケレハ其性最モ弱シ此藥往
古ヨリ用ユ既ニ俗間一般ニ家貯藥トス此藥ハ知覺鋭敏
粘液過多ナル症ニ輕收斂劑トノ用ユレハ血管收縮
メ大ニ功ナク奏ス洗眼劑トノ用ユルニハニハナク一リノ水ニ

強溶液ノ方
鉛糖二カ或ニカ
水ニ多シ溶解ス

頭髪落
多量
ホリスコ
ゴリスコ
誤ナレバ

溶解メ用エ変質劑ニハ二十氏チ一多ノ水ニ溶解ス此藥
チ腐蝕劑トメ用エルト是稀ナリ且如此大量ナレハ眼中
ニ点スヘカラサルヲ論チ待タス

鉛劑

鉛糖 即酸醋鉛

此藥チ收斂劑トメ用エルハ一氏或ハ二氏五氏チ一多ノ
水ニ溶解ス近今此強キ溶液チ眼瞼ハラミテシーニ筆チ以
テ仔細ニ塗擦ス然ルキハハラミテシーノ上白色トナリ蓋痂
剥脱シテ治ス然レ氏十全ノ功チ得サルユヘ余ハ用ヒテ
其白蓋ハ炭酸鉛或ハコロロトノ溶解セサル者アリ而メ
其下リハラミテシーハ平坦トナリ治ス又此症ニホリスコ
即金公水トチ用エルモ收縮シテ平坦トナル此症ホリスコ
唱スル者

チ角膜トエヒテリ云剥脱ニ用エ然氏余ハ用ス何トナレハ此
者角膜ニ附着スレハ溶解セス白斑痕チ残スカ故ナリ
永劑

朱永

溶痰トナシ

此製劑諸藥ハ遇今唯朱永チ用エル而已其他黑降汞銀朱
人如キハ廢絶セリ朱永チ眼ニ用エルハ強弱諸種ノ其量チ
多少スル尚ハラミスノ強弱ニ由テ功チ異ニスル如ク強ハ
腐蝕劑ニ弱ハ刺戟劑ナリ且ツ是チ用エルノ的症一定
セス一医ハ梅毒性結膜慢性冷ニ称用ス一医ハ否テス故
ニ其効確定セス然氏蓋シ梅毒性冷ニ其効硝酸銀ニ優ル
ヘシ

其永

此藥水ニ溶解セサル故ニ水劑ト用ヒス極末トノ器械
性輕刺戟劑トテ眼中ニ吹入ス兼テ水銀固有ノ功ヲ奏ス
ルナリシ即チ角膜炎ニテ滲出物ヲ生シ斑痕ヲ為ス病ニ
ハ之ヲ吹入スレハ解疑消散ノ大功アリ又眼球眼瞼結膜
ニ虛性炎ニ吹入スレハ血管收縮ノ功ヲ奏ス其他角膜ニ
大ナル血管集湊スル症即チ同ニユス等ニ用ヒテ大功アリ

赤降汞

此藥ノ量ハ一ハヨリ三ハチ一ヲノ脂肪ニ混和シ用ユ或
ハ此中ニ阿片一二ハチ加フヘキ症アリ此膏ハ眼瞼縁ノ
腺性炎ニ塗擦ス此症ニ於テハ「ホルム」腺或ハ瞼毛根慢
性炎ヲ發ス此症ニ用ユヒテ確切ナリ

水銀膏

此膏ハ眼瞼縁ニ用ヒス瞼ノ周圍ニ塗擦ス眼内外々殊ニ内
部炎ニ稱用ス

亞爾加利性塩 食塩

或ハ此稀溶液ヲ硝酸銀点眼后洗濯劑ニ用ユ然レ之ヲ用ユ
ルニ及ハス

重土塩

此藥モ古來解凝劑トノ腺性炎ニ用ユ此塩中殊ニ硫酸重
土ヲ稱用ス

沃度刺爲亞斯

此藥モ点眼スレバ甚稀ナリ蓋シ角膜曇暗腺性慢炎ニ功
アリ此他沃陳謨劑即沃陳謨示膏沃度刺爲亞斯膏ナリ

眼固ニ塗擦薬トノ用ニ就中迄今沃陳丁幾ナ強弱共ニ眼
固ニ塗擦ス其的症ハ腺性冷ニテ眼瘡有ナル者ニ及
射刺戟トノ用ニ之ヲ塗敷スル眼中ニ入ラサル様ニ注意
スヘシ何トナレハ腐蝕薬ナレハナリ又固有ノ性ニテ眼
中滲出物等ヲ解疑消散セシムルノ功ナ有ス

植物性剤 阿片

此薬ノ性ハ製剤草ナルアリ複ナルアリテ眼ニ用エル者
多シ阿片ハ單純ニ溶解セシ丁幾或ハ諸品ヲ混和セシ丁
幾即舍電阿芙蓉液ナリ此薬ハ眼ノ慢性冷ニ変質劑トノ
用ニ然テ眼表面ノ冷ニ用ユ又角膜曇暗ニ用エルヲ多シ
能液ニテ用レハ稍刺戟ノ功ナ奏ス稀薄ニメ用レハ鎮瘡
壓抑ノ功ナ奏ス故ニ眼瘡瘻瘻或ハ疼痛アリ症ニ用ユ時

壓抑一本作
六群

トメハ此薬ナ他薬ト交換ノ用エルヲアリ假令一日ハ此
液ヲ用ヒ一日ハ硝酸銀等ヲ用エル如シ此液ヲ用エル注
意ノ清浄ニスヘシ阿片ノ細纖維アリテ眼中ニ入ルヲ
リ故ニ沈澱セシメ上清而已ヲ用ユヘシ症ニ由テハ之ヲ
用ユテ却テ水性増進スルヲアリ然ル時ハ速ニ止ムヘシ
モルヒ子

此薬阿片製剤中最モ多ク用ユ此レ阿片中ノ「アルカロイデ」ナ
リ殊ニ醋酸性塩酸性ノ二種ヲ用ユ就中迄今塩酸性ヲ液
劑トノ眼中ニ点シ膏トノ眼瘡瘻瘻疼痛アル症ニ眼固ニ
塗又迄今劇痛アル症ニ此稀溶液ヲ眼固ノ皮下ニ注射ス
其功最モ速カナリ之ヲ注射スル益ハ「スボイト」ノ先頭「トロ

イカルノ如ク皮膚ニ刺入スヘキ者ヲ用ユ

蟹栗壳

此葉細剉ノ琶布或浸劑トノ眼固ニ貼ス

莨菪

此葉モ諸製アリ其葉ヲ細剉ノ琶布ニ用ユ古昔ハ越後斯
ヲ眼固ニ塗擦シ或ハ点眼ス之レ強キハ碎鎮痙ノ功ヲ奏
ス此他瞳孔ヲ散大セシムル一種ノ性ヲ有ス

アトロピン

近今莨菪中ニアルカリ性ノ塩アルヲ發明セリ即チアトロピン
ナリ莨菪ノ功ハ總テ此ノ塩ニアルナリ此塩而已ニテハ
溶解セス然レニ鹽酸ト抱合スレハ溶解ス殊ニ硫酸ニ抱合

イカルノ如ク皮膚ニ刺入スヘキ者ヲ用ユ

一本ニ

スレハ最モ溶解シ易シ此葉少量ト虽モ其功劇シ一ハニ

一カノ水ナリ一ハ一カノ水ニ溶解シ一滴点眼スレハ引モタシ一カヲ棄テ

数日間瞳孔散大ス此葉諸般ニ用ユ第一瞳孔ヲ散大セシ
ノ第一虹彩癒着剥脱シ第二アトロピン一カヲ棄テ為ニ用

之レ近視眼遠視眼ノ度ヲ量ルコトモタシ一カヲ全ク去ラサ
レハ確定スル一カヲサレハナリ此他諸般ノ内外冷ニ鎮

痙鎮痛劑トノ用ユ即チ血管神至ヲ鎮靜シ之ニ由テ冷性
ヲ耗減ス故ニ虹彩及ヒ内部ノ諸冷ニハ実ニ缺クヘカラ

サル良葉ナリ又角膜冷ニテ劇痛アル症ニ功アリ此葉時
トノ刺戟スル一アリ即チ点眼后赤色ヲ顯ハス又人ニ由

テハ感受鏡ニノ刺戟過敏ナル一アリ然ルハ速ニ止ム
ヘシ硫酸アトロピンヲ試食紙ニ灌ケハ赤色トナル然ハ則酸

酸 性 一 本 二
遊 離 酸

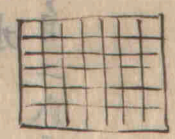
一 本 二
水 一 勺

凡 千 八 百 六 十 三 四
年 頃

按 紙 垂 り 吸 収 乾
カ ス モ ノ 之 中 固 ノ 如 ク

性 有 ス ル ニ テ 眼 中 刺 戟 ス ル ナ レ 此 藥 小 兒 ニ 用 ヲ
ハ 注 意 ス ベ シ 動 作 ス レ ハ 淚 点 ヨ リ 鼻 中 ニ 入 リ 咽 喉 ニ 感
シ 中 毒 症 ナ 登 ス 余 嘗 テ 一 兒 ノ 点 眼 後 中 毒 ニ 由 テ 喉 部 強
直 ト ナ リ 嚥 下 ス ル 一 克 ハ サ ル 者 ナ 目 撃 セ リ 故 ニ 唯 瞳 孔
ヲ 散 大 セ シ ム ル ニ ハ 半 分 ヨ リ 四 分 以 ノ 一 二 三 ノ 水 ニ
溶 解 ス ル ナ リ テ 足 レ リ ト ス 如 此 輕 ニ テ ハ 一 日 二 日 后 散
大 復 ス ル 故 ニ 患 者 不 快 ナ 覺 ヘ ス 且 ア コ モ タ シ 一 カ ナ 全
ク 棄 ハ サ ル コ へ 讀 書 ス ル ナ リ 得 ヘ シ
ガ テ バ ル
此 藥 近 今 發 明 ニ テ 其 功 前 藥 ト 相 反 ス 豆 ノ 如 キ 水 実 ナ リ
之 ナ 越 歲 斯 ト ノ 用 ヒ テ 大 ニ 瞳 孔 中 收 縮 ス ル 功 ナ 有 ス 其
用 法 ハ 越 歲 斯 ナ 紙 ニ 侵 シ 乾 燥 セ シ ノ 其 小 屑 紙 中 入

截 リ 一 片 ナ 眼 内 ニ
入 ル ベ シ



未 熟 素 ノ 誤 リ

ル 、 氏 ハ 忽 チ 收 縮 ス 其 時 間 ハ ア ト ロ 子 ニ テ 散 大 ス ル 時 間
ト 同 シ 之 ナ 用 フ ル ハ ア ト ロ 子 ニ テ 散 大 ス ル 不 快 ナ 治 ス
ヒ ヨ ス

此 藥 葉 ナ 琶 布 或 ハ 煎 劑 浸 劑 ト ノ 用 ヲ 此 他 用 ヲ ル ナ 稀 ナ
リ シ キ ヲ タ 及 ケ フ ン ツ ク テ レ ケ ウ ル シ
此 藥 葉 越 歲 斯 或 ハ 琶 布 ト ノ 用 ヲ 今 ア ヲ ウ テ レ ケ ウ ル シ
コ ー 子 ト ナ 暗 黒 色 ノ 淚 ナ リ 是 レ ハ 劇 シ キ 毒 劑 ナ リ 極 輕
量 ニ 用 ヒ テ 鎮 痙 鎮 痛 ノ 功 ナ リ 即 チ 角 膜 疼 痛 痙 率 ニ 用 フ
又 内 服 ス ル ナ リ 十 分 以 ノ 一 ナ 一 日 一 量 ト ス 如 此 劇 藥
ナ ル ナ 故 概 シ 小 兒 ニ ハ 用 ヲ 工 ヘ カ ラ ス 或 人 右 ノ 量 ニ テ 用
フ レ ハ 鎮 痛 ノ 大 効 ナ 奏 ス

タンニト子

此葉ハ收斂ノ功チ有スル元素ニテ殊ニ解皮ヨリ多ク生
ス元素此葉酸性ナルカ故ニ一各タンニ子酸ト云フ此
葉而已ニテ用エルヲアリ或ハ他ノ鉛類ト抱合メ用エ鉛
亜鉛ナリ即タンニ子酸化鉛タンニ子酸化亜鉛ナリ
之ヲ溶解スルハ單果或ハ他葉ト合メ溶解シ強弱共ニ用
エ其症ハ一般ノ慢性冷或ハ刺戟旺盛粘液分泌過多症及
ヒ眼瞼弛緩ノハラミテ「ニ」ニ用エ其量ハ一合リ十合チ一
ノ水ニ溶解ス此葉血管チ收斂セシムル功アリ

テレピン油

此葉トハ子ムヤテレピン油ト合メ用エ其量等分ニ混和
ス此葉ハ角膜慢性冷ニテ「ハ」ニ「ス」ニ傾ク症ニ用エ又角膜

曇暗筆ニテ一日一二回班霜上ニ塗擦ス又夕知覺鏡ニ
ノ純粹ノ者ニ堪ヘサル氏ハオレ一フ油ト和メ用ルヲア

竜腦

此葉ハ角膜班霜上ニ散末トノ吹入ス又此目的ニテ砂糖
或ハケレ一ト出チ散末トメ用フルヲアリ然レ此等ノ葉中
甘柔チ吹入スルチ最モ善シトス

茶葉

此レ日常煎出セシ后ノ葉チ毬布トメ冷或ハ温ニメ用エ
ルヲアリ

動物製劑 脂肪

此レ獸類ノ脂肪チ眼瞼輕刺戟スル為ニ用エ或ハ乾燥ス

此症ニ用ユ之レ其新鮮ナルヲ撰フヘシ既ニ脂肪酸ニ愛
スル者ハ害アリ

乳汁

此レヲ飯ト混合シ緩和布トノ用フ

芫菁膏

此藥ハ直ニ眼瞼ニ近ク貼スヘカラス古エハ差明アルノ
症眉毛上ニ貼ス然レ其功ノ當否知ルヘカラス又顙顙
耳后又大ナル者ヲ項窩ニ貼ス余モ屢之ヲ用ユレ其功
ノ著明ナルヲ知ラス眼ニ近クハ顙顙眉毛ヨリ越エ可
カラス

芫菁丁錢

之ヲ稀薄ニシ眼周圍ニ塗擦ス即瞼輪狀筋拳攣筋六痲衝

眼科診法篇

鵬度却口授

眼病診法及助苦

患者ヲ診スルニ必ス助苦ヲ要ス且患者ヲ靜ニ倚
ラシメ明窓ニ對メ其眼中ニ光線ヲ入ルヲ妨クベカラス
然レ差明甚シク眼瞼痙攣ノ明光ニ向フテ眼ヲ開クヲ克
ハサレハ光線ヲ適宜ニシテ診スヘシ患者ニ對シテ卒尔
ニ眼ヲ開診スヘカラス先ツ眼瞼ノ外兒ヲ熟察シ次テ其
發病原因ヲ尋問シ而シテ右眼ヲ開キ次テ左眼ヲ
開キ后兩眼ヲ比診スヘシ而后眼球周圍眼瞼及ヒ結膜次
テ淚点淚囊睫毛諸腺等ヲ診スヘシ結膜ヲ診スルハ唯
瞼ヲ開クノミナラス之ヲ上下ニ引テ眼球ヲ上下ニ轉セシ

ムヘシ又眼瞼ヲ反翻ノ其裏面ヲ見ルハ能ク注意ノ瞼
毛持テ輕ク上瞼軟骨ヲ壓セハ消息子或ハ拇甲ナマリ容易ニ反翻
スヘシ必ス粗暴ニスルハ勿レ否ラサレバ患者甚不快ナ
覺テ又羞明或ハ眼瞼痙攣ノ眼ヲ開キ難キアリ然ルハ
ハ強ク診スヘカラス次日ヲ待テ診スヘシ又眼瞼ニ病性
ノ毛内面ニ生シ角膜ヲ刺衝シ慢性冷夫瘖スルハ急シ故
ニ凸鏡ヲ以テ細視スヘシ又屢演囊ヲ輕壓シ檢スルハ急
タラズ何トナレハ淚囊中ニ膿アリ之ヲ為ニ慢性冷瘖
スルハアリ然ルハ膿ヲ淚点ニ洩ス淚液ノ分泌多少ヲ
注意スヘシ

眼球診法

表面ノ色及景况硬軟ヲ診スヘシ此硬軟甚シケレハ知レ易

スケレ然ラサレハ甚ク診難シ其法兩手ヲ前頭ニ接シ
兩示指ニテ瞼上ヨリ壓診スヘシ且其前ニ健眼ヲ設シ此
較スヘシ單純ノ結膜冷ニテ血液灌漑シ脈管努張スル者
ハ之ニ觸ルレハ動搖シ若シ白膜冷ニテ深処ニ血管ヲ顯
ワスハ動搖セス之レニ由テ冷ノ所在ヲ知ルヘシ外部
冷ニテハ唯結膜ニ瘖冷シ血管ヲ顯ハスハシナル内
部
冷ハ角膜周圍ニ血管環ヲ生ス眼球后部ノ血液壓迫ニテ
ハ眼球上部ニ迂曲スル血管ヲ顯ハス

角膜診法

先ツ其大小穹曲光滑其質ノ透明ナルヤ否ヤ表面ノ光澤
ナルヤ診スヘシ時トノハ甚ク薄ク曇暗ノ外見ヲ知ルヘ
カテサルモ患者大ニ視力ヲ妨クルアリ面ノ滑沢ナルハ

表面ノエヒテリユムニ由ルナリ故ニエヒテリユム剥脱
スレハ処ル粗糲トナル其ノ剥脱甚少ナケレハ診シ難シ
然レ燭火ヲ眼前ニ置キ照シ檢スレハ太陽ノ水面ニ映ス
ル如ク少ノ剥脱モ尚知ルヘシ角膜ニ曇暗或ハ斑痕アル
モ虹彩ニ對シテ瞳孔ニ對セサル氏ハ見ヘ難キナリ之
レニアトコトヲ点シ瞳孔散大ノ其曇暗瞳孔ニ對スル氏ハ
明ニ知ルヘシ又曇暗ヲ側ラヨリ光線ヲ入レ診スル法アリ
即適宜ノ凸鏡ヲ以テ眼ノ傍ニテ遠近ニ光線ノ漏斗状
ノ燒点ノ尖頭或ハ大ナル処ヲ角膜上ニ落シ他ノ一午ニ
凸鏡ヲ持テ患眼ヲ檢スレハ其曇暗ヲ大寫ノ明ニ見ルヘ
シ此法角膜斑ヲ檢スルノミナラス水晶体系統ノ病ヲ尚
詳診スヘシ之レヲ照眼鏡ニテ檢スレハ最モ明ラカニ知

ルヘシ此曇暗ノ部分ヲ檢スルニ緊要ナリ何トナレハ表
面ニアリ徑久ナラサレハ速ニ治ス然レハ其后面ニアル
者ハ治シ難ケレハナリ水様液混濁ノ他皆ノ色ヲ変シ見
セシム假令ハ冷ニテ水様液混濁スレハ虹彩色ヲ変スル
如シク混濁スルモ眼外見ヲ異ニス

虹彩診法

虹彩ハ殊ニ其縮張ノ景況ヲ詳ニ診スヘシ即午ナリ以テ
眼前ヲ覆ヒ或ハ去リ又眼瞼ヲ開闔シテ知ルヘシ又常ノ
瞳孔ノ大小ヲ知ルヘシ壯者ハ老人ニ比スルニ甚大ナリ
又物体ヲ見ル遠近ニ從ヒアコモタイシカノ強弱ニ由テ瞳孔
大小ス見ル処力近ケレハ小トナリ遠ケレハ大トナル又其
色ニ注意スヘシ水様液混濁ノ為ニ色ヲ変スルノミナラス

其於ニテモ然ルナリ故ニ瞳孔縮張機ト色ヲ變トニ由テ
其於ノ者有無ヲ徴スルニ足ル而後内景ヲ診スヘシ即チ
「アト」子ヲ点スレハ癒着アリ此明ラカニ知ルヘシ然ラサ
レハ癒着知リ難キ「ア」リ而シテ全ク散大スルハ水晶体
系統ヲ明ラカニ診シ得可シ

自試法

前ニ説キシ如ク黒厚紙ノ小孔ヨリ見セシメ其見ル形状
ヲ画カシムルナリ然レ患者頗ル事ヲ解スル者ニ非ラサ
レハ能ハス

燭火診法

此法既ニ人身竅理ニテ説キシ如ク燭火ヲ照シテ三像ヲ
見ルナリ之ニテ角膜及ヒ水晶体前後ノ面ヲ診スルナリ

此法照眼鏡發明以來甚チ用セズ燭火ヲ眼前ニ照スルハ
角膜面ト水晶体ノ前面ノ像ハ正像ニテ殊ニ角膜面ノ像
ハ明カナリ水晶体ノ前面ノ像ハ眼ノ最モ后部ニ濛朧ト
シテ見ユル水晶体ノ后面ノ部ニ映スル像ハ小ナリ倒像ニ
シテ角膜面ノ像ト水晶体前面ノ間ニアリ又水晶体ノ実像ニ
シテ曇暗アルモ此三像ヲ妨ケサル「ア」リ

硝子液網膜脈絡膜診法

此診法ハ總テ照眼鏡ニ関ス既ニ説キシ如ク照眼鏡發明
以來眼内部ヲ詳悉ニ検スル「ア」リ得タリ此器ナケレハ眼
中唯タ暗黒ナル「ミ」此理ハ患者ノ眼中ニ光線ヲ射入シ
又射入向ンテ其光線反射ノ驗者ノ眼中ニ入ルナリ詳ナ
ル「ア」ハ光線論ヲ見ルヘシ眼内景ヲ詳検トセハ勉テ實驗

スヘシ此器ハ「ヘルムホルツ」發明ニシテ其以來諸種ノ鏡ヲ用フ
罩ナルアリ細ナルアリ或ハ數箇ヲ以テ造構スルアリ試
驗スルニ皆宜シ此器ヲ用ユルニ其初度ニ当ルハ諸變
形ヲ明ニ見ルノミ此器ヲ用ユルヤ先シ患者ヲ暗室ニ坐
セシメ頭ヲ安着セシメ洋燈之レニ用ル油ハ患者ノ傍ニ近
置キ其間ニ板ヲ以テ隔テ光輝ノ患者ノ顔ヲ照スヲ遮ル
ヘシ而シテ洋製燈ハ患者ノ傍ニ接近スルヲ善シトス否
ヲサレハ光線甚斜ノナリ而シテ洋製燈ト患眼ト自眼ト其
高サ皆同クスヘシ而シテ自眼ヲ遠近ニシ又患者ノ頭ヲ
上下シテ其的度ヲ得ヘシ又眼瞼ヲ午ニテ開クヘシ而シ
光線ヲ入レテ内部血管等尚明ラカニ見ル「イ」克ハサルハ
ハ凸凹ノ鏡ヲ添テ其的度ニ當リヘシ然レハ明ラカニ見

ルヘシ眼中ニ正位ニ見ルト倒位ニ見ルトアリ尋常ノ照
鏡ハ皆倒像ヲ見ル者ナリ先シ右午ニ照鏡ヲ持テ左午ニ
凸鏡ヲ持テ而シテ照眼鏡ノ孔ヨリ患者ノ瞳孔ノ赤色ニ見
ユル程ニ位置ヲナシ次テ左午ノ凸鏡ヲ患眼ニ當リ此凸
鏡ハ二指ニテ持テ他ノ三指ハ患者ノ前額ニ當テ而シ三
指横至テ隔リヘシ然レハ血管神至乳頭モ見ルヘシ神
至乳頭ヲ見ント欲セハ患者ヲメ内眥ヲ視セシムルハ明
ラカニ見ルヘシ然レハ此法未熟ノ徒ハ見難シ何トナレハ
左右ノ午ニシテ動クハ光線異面ヲ見ヘス故ニ未熟ノ
徒ハ凸鏡ニ臺ヲ付ケ置ケハ見易シ熟練セシ者ハ却テ
臺ノ無キ小照眼鏡ヲ午ニ持ツテ見ルヲ善トス曾テ大ニ
ル照眼鏡ヲ製シ照眼鏡及ヒ凸鏡ニ臺ヲ付ケ且シ患者ノ

頭モ動カサルヤウニ構成シ未熟ノ徒ニ示セシカモ迄今
ハ用ヒス熟煉スルモハ各箇ノ簡便ナル鏡ヲ以テ明ラカ
ニ見ユルヲ得ヘシ之レニ正像ヲ見ント欲セハ照鏡ヲ加
ヘ患者ニ近ク寄り見ルヘシ若シ患者或ハ自眼近視ナレ
ハ其強キ凹鏡ヲ用ユヘシ然ルモハ兼テ患者ノ近視ノ度
ヲ知ルヘシ照眼鏡ヲ用ユルニ患者ノ堪ユルト否ラサル
トヲ注意スヘシ堪ヘサル者ニ強テ久ク換スレハ網膜充
血ヲ起ス内部タル殊ニ注意ノ試用ユヘシ若シ堪ヘサル
者ハ速ニ止ムヘシ初學ノ徒之ヲ學フニ社中互ニ健眼ヲ
檢視スヘシ而ノ生来神至乳頭各人ニテ異ナル等ヲ知ラ
サルハ患眼ヲ換スルモ知ルヲ能ワス是レ照眼鏡ノミナ
ラス眼ノ組織ヲ知ルヲ克ハス又アト口ヒ子ヲ点シ瞳孔

散大スルヲ不快トモ甚之ヲ忌ム者アリ然ルモハ之ヲ用
ヒス常ノ瞳孔ニテ換スヘシ近今發明ニテアト口ヒ子ニテ
散大スルヲ収縮セシムル藥アリ之ヲ「ガバ」ト云フ然レモ
散大ヲ忌マハ強テ施スナカレ水晶体等ニ曇暗アルモハ
内部ヲ見ルヲ妨ク又照眼鏡ニテ其曇暗ノ形状位置ヲ
詳ニ知ルヘシ色素ノ多少ニ由テ眼底ノ色異ナリ又キ有
ハ黒色ニノ少キ者ハ赤色ナリ皇國人ノ如キ色素ノ多
キ眼ハ其像黒色ニ見ユル緑眼殊ニ小兒ノ眼ハ色素少ナ
キニヘ見ヘ易シ系来色素ノ少キ人ハ脉络膜ノ血管ヲ透
見スヘシ又キ人ニ於テハ見ルヲ克ハス眼中最モ早ク見
ル者ハ神至乳頭ナリ此者光輝アルニヘ見易シ故ニ眼底
ヲ見ル先リ之ヲ目的トシ位置ヲ定メ次テ四圍ヲ見ルヘ

シ黄斑ハ網膜上ナ一般ニ照シ大ナル光線ヲ入ルハ見ル
ト能ハツ之ヲ見レト欲セハ小ナル焼点ヲ眼中ニ結ハシ
ノ神至乳頭ヨリ漸ク側辺ニ移セハ稍黄斑ヲ見ル之レ黄
斑ナリ尋常照眼鏡ハ左右倒影ニ見ユル工へ病変ノ位置
ヲ定ムル之中注意スヘシ未熟ノ徒ハ頭微鏡ヲ視ルト同
シク「ア」工モ「シ」力未ダ習慣セザ工へ忽チ眼疲労シ明詳
ニ見ント欲メ整視スレハ益視ヘサルニ至ル如此ハ速
ニ止ムヘシ屢習熟スレハ「ア」工モ「シ」力度モ定マリ眼疲労
セスノ容易ニ見ルヘシ

